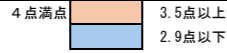


青陵の心 ◇教職員・生徒・保護者 学校評価アンケートの集計と評価・分析◇



	教 員 ア ン ケ ー ト		生 徒 ア ン ケ ー ト		保 護 者 ア ン ケ ー ト		評 価 ・ 分 析	
	評 価 項 目	平均	評 価 項 目	平均	評 価 項 目	平均		
学校満足	生徒の主体性や自己肯定感を高め、生徒が学校に通うことに満足できる教育活動を実践している。	3.1	学校生活が楽しく、満足している。	3.4	青陵中の教育活動に満足している。	3.2	生徒たちは概ね学校生活に満足し、保護者にもその姿が伝わってきている。更に高めていきたい。	
			青陵中を誇りに思っている。	3.3				
キャリア教育	自立した大人を意識させた、教育活動を行っている。	3.1	自分の将来の姿（自立した大人）について考えている。（考えるようになった）	3.1	学校は、お子さんに適切なキャリア教育（自立した大人を目指す）に取り組んでいる。	2.9	平均3ポイントほどだが、他の質問の結果からみて、自立した大人への素地は育ってきていると考える。現在の生活がどのように「自立した大人」と結びついているのか考えさせる必要がある。	
					お子さんと、将来について話し合うことがある。	3.3		
学力向上	生徒と生徒、生徒と教師の対話を重視し、主体性や個性を尊重した授業を行っている。	3.2	主体的に学習に取り組んでいる。（生活全般）	3.1		3.0	「学ぶ意味と学ぶ楽しさを感じられる授業」に取り組んできた。教師が学ばせるのではなく、生徒が主体的に学ぶといった、授業の主役が生徒となるよう努めてきた。ICTをさらに有効に活用し学びを深めていく。計画的な家庭学習に取り組めていない生徒（4段階で2または1をつけた）が35%程度いた。授業と家庭学習をつなぐ工夫と、家庭の協力が必須である。読書については、小中連携して取り組んでいるが、個人差が大きい。学校や家庭で、本との出会いの機会を増やすなど工夫も必要である。	
	生徒の学習状況を把握し、多様な生徒への学習方法の工夫をしている。（タブレット以外）	3.0	授業で「わかった」「できた」を実感できている。	3.3				
	授業で「個人思考」や「集団思考」の場を設定している。	3.5	授業ではじっくり考えたり、考えを交流する場面がある。	3.4	授業で、お子さんに基礎的な知識や技能を習得させている。			
	生徒の学習状況を把握し、多様な生徒への学習方法の工夫をしている。（タブレットに関して）	3.2	授業でタブレットを使用することにより、学習がしやすくなっている。	3.5				
	計画的に学習ができるように、授業のまとめ等を工夫するなど自学の方法を身に付けさせる工夫をしている。	2.9	計画的に家庭学習に取り組んでいる。	2.5	お子さんは、自学の方法を身につけ計画的に家庭学習に取り組めるようになってきた。			2.6
	読書の意義や楽しさを伝える工夫をしている。	2.8	家庭でも読書に取り組んでいる。	2.2	家庭では、お子さんに読書に取り組むように働きかけている。			2.3
生徒指導	生徒が、主体的に活動ができる場を工夫している。	3.3	主体的に生活を送ることができている。（生活全般）	3.4		ISSY運動（いじめ・しない・させない・ゆるさない）から派生させ、ISSYアドバンスプロジェクト（生徒主体）ISSYプロジェクト（教師主体）に取り組んできた。どちらも、より主体的により良い学校生活（自己存在感・共感的な人間形成・自己決定・安心安全な風土）が送れるよう努めてきた。その成果が現れてきていると考える。その成果を日常的に発揮できる実践力をつけていかなくてはならない。		
	学級活動や学校行事等で役割を自覚させ参加させることができている。	3.5	学校生活の中で自らの役割をもち責任を持った行動ができている。	3.3	お子さんは、家庭での役割を持ち責任ある行動をとっている。		2.7	
	自ら考え、選択し決定させる場を設定している。	3.3	自らの考えを活かした活動ができている。	3.2				
			生活の決まりに対して満足している。	3.1				
	生徒の共感的で好ましい人間関係を育てる支援や指導を行っている。	3.3	認め合い、思いやりを持った言動や行動ができている。	3.4				
	日常から生徒に対する賞賛や激励を意識して行っている。	3.5	良い人間関係を築くことができている。	3.5	お子さんと、コミュニケーションを積極的に行っている。		3.5	
	いじめを決して許さない集団づくりに取り組んでいる。	3.6	「いじめは絶対に許されない」と思う。	3.5	お子さんは、「いじめは絶対に許されない」と思っている。		3.8	
	自己存在感を高めることを意識した生徒理解に取り組み、安心感・安全感を与える生徒指導を行っている。	3.3	協力し活動することができている。	3.5				
			自分を大切な存在だと感じているか。	3.1				
	生徒指導のルールをよく理解して組織的に指導を行えている。	3.3	挨拶をしっかりとしている。	3.6	お子さんは、日常的に挨拶がしっかりとできている。		3.3	
生徒・保護者とコミュニケーションを図り、信頼関係が築けている。	3.1	先生に学校生活や将来のことなどの不安や悩みを相談しやすい。	3.1	学校は、生徒や保護者の悩みや不安を相談しやすい雰囲気があり、適切に対応している。	2.9			
生活	基本的な生活習慣を確立させるため、計画的、継続的な指導を行っている。	3.3	規則正しい生活を送っている。	3.2	お子さんは規則正しい生活を送っている。	2.9	生活習慣についても個人差が大きい。SNS等の普及により生活が乱れがちな生徒も散見させる。運動系の部活動に属する生徒は、3分の1ほどである。	
	体力向上のために授業や部活動以外でも、日常的に体を動かすように働きかけている。	3.0	授業や部活動等以外でも運動するように心がけている。	3.0	家庭では、お子さんに、日常的に運動するように働きかけている。	2.9		
			朝食を食べるようにしている。	3.6				
安全	安全に対する適切な判断力・行動力を育成する指導をしている。	3.4	学校で地震や火災等が発生した時の対応や避難方法を理解している。	3.6	家庭で、お子さんと災害時について話すことがある。	3.0	学校での防災・減災指導を引き続き行っていく。	
情報	各種お便りやホームページ等で情報提供を適切に行なっている。	3.5	学校・学年・学級だよりを読んで必要な情報を得ている。	3.2	各種お便りやホームページで学校の情報がよく伝わっている。	3.4	情報発信の方法を工夫しながら連携を図っていく。重要かつ必要な情報が伝わるよう工夫して行く。	

○保護者の声○（自由記述より 一部ですが記載させていただきました）

○学校より○

合唱祭では歌ってるクラスはもちろん、見ている人たちの態度や拍手の様子が3年間通して毎年きちんとしていて、思春期の子どもたちなのになかなか教育されているように感じる。	・合唱祭等の行事では、生徒たちが主体的に参加している姿のあらわれだと考えます。
勉強も大事ですが、親としては楽しく学校に行き色んな方と関わりをもって社会性を身に付けてもらえることが嬉しいですね。	
現代社会において必要な自立性やSNSを始めとする物事の善し悪しについては学校の規則があつてこそ保たれる秩序がありますし、生徒の受け方がどうであれ学校として未熟を見据えて指導して頂いてはとてありがたいです。もっと伝わればいいのですが、急には出来ないのといざ困る場面にならないと気づかないのが当たり前だと思つたので、先生や教員の子の経験談や例え話などを雑談のように取り入れるなど、想像しやすくより伝わるような工夫を大人が何度もする必要があるのかなと思つています。	・「未来を幸福に生きることのできる自立した大人」を育てるため知・徳・体のバランスを取りながら教育活動を行っています。それは、予測できない未来に対応するため、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に関わりよりよい社会と幸福な人生を創り出して行く大人を育てていきたいという思いです。そのために学校の役割も今一度捉え直し、新しい時代にふさわしい学校のあり方も考えていかなくてはならないと感じています。その中の一つとして、働き方改革があります。学校における働き方改革は、「長時間勤務等により教員が疲弊しては、子供のためにならない」とことより、「教員の働き方を見直し心身の健康を保持するとともに、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行う」ことが目的です。効果的な教育活動を行うためには、教員が健康で生き生きと働くことが大切です。生徒たちと向いあう時間や、授業の質を高めるための授業準備の時間を十分に確保できるよう学校や教員の役割や働き方を見直しています。今までの教育効果を損なうことなく、より効果的かつ効果的な活動となるよう改革を進めていきたいと思います。その際には、ご家庭のご協力も必要不可欠なこともありますのでよろしくお願いいたします。
今、体罰等の影響で教育に携わる方達が、子供達と思いっきりぶつかり合えていない、淡々とした環境であると感じています。教育や指導現場では、様々な明確な関係性を持って子供達と接して行く必要があると思う。ゆとり世代とかは子供のせいではなく、大人たちが勝手に作ったルールにより、「今の子達は」という表現は不適切と考へてます。もっと感情豊かに過ごせる教育環境であればいいのに。	
先生方の働き方改革を推進して、より良い青陵中になりますよう、保護者として支えていきたいと思つています。	
理由など詳しいことはわかりませんが 学年全体で不登校の子や教室にはいれない子が多いと感じます。息子は理由はわからないと言いますがいじめなどの問題が知らないうちで多いのかな？と不安に思つこともあります。	・学校になかなか足が向かない、教室に入りづらい生徒がいることは事実です。その理由は様々で、一人一人それぞれの対応が必要となつていきます。学校には、それらに対応するコーディネーターも設置し、情報共有や対応など検討する会議も定期的に開いています。生徒一人一人に対する理解を深めそれぞれの対応をしています。また、学校だけではなく関係機関とも連携を取り、相談ができる体制や学びの場を補償しています。